

## (仮称) 認知症ミーティングセンターを支援

事業名 認知症本人・家族支援事業

予算額 1,246千円

### POINT

- 認知症本人と家族が活動する場を専門職等が運営
- 活動開始に向けた勉強会を開催

### 事業概要

- ◆ (仮称) 認知症ミーティングセンターの開設・運営支援  
認知症本人と家族が集える場を専門職など民間のグループ等が開設し、一体的に支援するプログラムを実施。区が支援を行う。  
認知症本人の不安などの周辺症状の改善やQOL（生活の質）の向上、介護者の介護肯定感の向上を図る。
- ◆ 活動開始に向けた勉強会の実施

### 背景・目的

認知症の「本人」や「介護家族」それぞれに焦点を当てたサポートプログラムが充実してきている中で、認知症高齢者の介護に関する研究の中核機関により、最も身近な関係であり在宅生活をともにする「本人」と「家族」の関係性に着目した支援が必要である、と報告がなされた。

本プログラムの実施の支援により、認知症の本人と家族の「関係づくり」への支援を通じて在宅生活の安定と継続を図る。

### スケジュール

4～6月 勉強会・事業説明会  
7月 事業開始

#### 認知症の中核症状に付随した症状 ⇒周辺症状

- ・不安や焦り
- ・もの盗られ妄想
- ・暴言や暴力
- ・介護拒否 など



福祉部 宮尾 高齢者福祉課長  
電話 03-5742-6727

## 認知症高齢者グループホームの整備

事業名

認知症高齢者グループホームの整備促進  
(区独自の上乗せ補助)

予算額

11,250千円 ※初年度は出来高50%を想定

POINT

住み慣れた地域で安心して暮らせる  
介護サービス基盤の充実

### 事業概要


認知症高齢者グループホームの整備費に対し、区独自の上乗せ補助を行う。  
・補助費 認知症高齢者グループホーム整備費 1ユニット7,500千円

例) 認知症高齢者グループホーム3ユニット整備の場合  
東京都補助 146,100千円+品川区補助 22,500千円=178,600千円

### 背景・目的

都市部においては、認知症高齢者グループホームの整備に要する費用負担が大きく、民間事業者の参入が進まない状況にある。

今後、区内の認知症高齢者の増加が見込まれるため、整備費の一部を区が上乗せ補助することにより、民間事業者による整備を促進し、住み慣れた地域で安心して暮らせる介護サービス基盤の充実を図る。



福祉部 寺嶋 福祉計画課長  
電話 03-5742-6885

## 要配慮者向け 災害対策の充実

### 事業名

- ① 災害時等における介護事業者連携体制の整備
- ② 在宅人工呼吸器使用者への  
非常用電源の確保 **【新規】**

### 予算額

- ① 10,000千円
- ② 2,120千円

### POINT

- ① 災害時等の要介護高齢者等の安全確保
- ② 在宅人工呼吸器使用者の災害時支援

### 事業概要

- ①
  - ◆ 大地震などの自然災害や感染症のまん延時などに、要介護高齢者の生活支援が継続されるよう区内事業者が協力・連携できる体制を構築するための仕組みづくり・効果的な支援のあり方を検討
  - ◆ 小規模事業者が実効性の高い業務継続計画（BCP計画）を作成するための支援
    - ・防災・BCP計画研修会の実施（年3回程度）
  - ◆ 事業所（者）へ事業内容の説明・課題抽出等検討・地域内連携の拡充
    - ・事業所における備蓄品の共同購入
- ②
  - ◆ 在宅人工呼吸器使用者へ発電機等の非常用電源装置を給付
  - ◆ 日常生活用具給付等事業の給付対象品目に追加

### 背景・目的

- ①厚生労働省が令和3年度より介護事業者に災害時における業務継続計画（BCP計画）の作成を義務付け。都が令和3年度から3年間、連携業務体制構築に取り組む自治体へ補助事業を開始。区では、災害時等に、要介護高齢者等の安全を確保するとともに、効率的な避難体制や避難後の生活支援体制を検討し、介護サービスの安定的な供給体制を構築する。
- ②災害時等に停電した場合、在宅人工呼吸器使用者は生命の危機に直結する。停電時の電力の一時確保を支援し、非常時の安心安全を確保する。

福祉部 ① 宮尾 高齢者福祉課長 電話 03-5742-6727  
② 松山 障害者福祉課長 電話 03-5742-6706

# スマホデビューを応援！

## 事業名

- ① はじめてのスマホ体験教室
- ② スマホよろず相談

## 予算額

16,000千円

## POINT

- 高齢者のデジタルデバイド解消・社会参加促進
- 貸出機器を使用する教室を新設

## 事業概要

①

対象：60歳以上で、スマホを持っていないかほとんど使っていない方  
内容：貸出機器で電源の入れ方・メール・電話・ネット検索など基本操作  
回数：8コース（全4回）×3会場

②

対象：60歳以上で、スマホに関する疑問等を相談したい方  
内容：操作方法などをマンツーマンで気軽に相談  
回数：週1回（4人程度）×3会場

## 背景・目的

シニア世代がスマートフォンに対して抱く「興味はあるが難しくて使えないかも」といった「不安感」を払しょくし、日常生活に便利なツールとして気軽に活用できるようにすることで、生活の質（QOL）の向上および社会参加促進を図る。

## スケジュール

4～6月 事業者を選定・契約  
8月 事業開始



福祉部 菅野 高齢者地域支援課長  
電話 03-5742-6732

# 障害者グループホームの整備

事業名 (仮称) 小山七丁目障害者グループホーム整備事業

予算額 344,293千円

## POINT

- 荏原西地区初の障害者グループホーム
- 利用者への適切な支援提供
- 障害者の受け入れ先拡大

## 事業概要

- ◆ 小山七丁目の用地を取得し、障害者グループホームの整備を実施
- ◆ 施設整備および運営は、民間事業者を公募

## 背景・目的

障害者の高齢・重度化に伴い、日常的に介護を必要とする障害者は増加傾向にある。障害者が住み慣れた地域で暮らしていくために、障害者グループホームの整備推進が急務となっている。

障害者グループホームの整備を行い、利用者への適切な支援につなげる。

## スケジュール

令和4年度 事業者公募・決定、用地取得、(設計)

令和5年度 (設計、工事)

令和6年度 (工事、開設準備、開設)

※設計以降は選定事業者による実施を予定



福祉部 松山 障害者福祉課長

電話 03-5742-6706

# 高齢者多世代交流支援施設の整備

事業名 北品川シルバーセンター改築工事

予算額 313,450千円

POINT

- 多世代の区民の交流
- 地域へ開かれた施設



## 事業概要

- ◆ 高齢者多世代交流支援施設（ゆうゆうプラザ）へ転換
- ◆ 令和4年7月より、旧施設の解体工事および新築工事に着手
- ◆ 敷地面積有効活用のため、現在敷地内にある品川消防団第一分団器具置場を新施設内に一体整備

## 背景・目的

北品川シルバーセンターは、開設から48年を経過し老朽化が進んでいることから、施設のバリアフリー化や用途拡大のため、3階建て施設への改築（新築）工事を実施する。

シルバーセンターの大規模改修・改築に伴い、区内で5つ目となる高齢者多世代交流支援施設（ゆうゆうプラザ）に転換することで、利用者層の拡充を図る。

## スケジュール

<北品川シルバーセンター>

令和4年 7月 施設休館、解体工事準備開始

8月 解体工事開始

<（仮称）北品川高齢者多世代交流支援施設（北品川ゆうゆうプラザ）>

令和5年 1月 新築工事開始

令和6年 2月 竣工予定

4月 新施設開設予定

福祉部 菅野 高齢者地域支援課長  
電話 03-5742-6732



# 孤独や生きづらさの解消に向けて

事業名 しあわせ創設プラン（重層的支援体制整備-検討）

予算額 12,000千円

## POINT

- 複数分野の専門職やNPO等との連携
- 「誰かに」「どこかに」つながる地域社会の構築

## 事業概要

介護、障害、子ども・子育て、生活困窮等における複数の課題や、既存の制度では対応が困難な課題を抱える人の困りごとについて、複数分野の専門職やNPO等と連携し、不安や課題を抱えている人が「誰かに」「どこかに」つながることで、安心して地域で暮らせる社会を目指す。

- ◆ 相談支援…連携して複数の課題を受け止める
- ◆ 参加支援…人と人がつながる・地域の居場所とつながる
- ◆ 地域づくり支援…地域でゆるやかに見守る

## 背景

既存の公的な制度では対応が困難な課題が増加しており、地域や社会で孤立してしまう人が増えている。

各分野の専門職は、相談に応じ、それぞれの支援サービスを提供しているものの、制度を越えた対応が困難なため、他分野の専門職や地域の多様な主体との連携が求められている。

## スケジュール

令和4年度 相談支援における実施体制・具体的困難事例の検討  
令和5度～ 参加支援・地域づくり支援における実施体制等の検討  
本格実施



福祉部 寺嶋 福祉計画課長  
電話 03-5742-6885